

◆ 今週のコメント

- 新型コロナウイルス感染症の報告が99例(男性50例(小学生1例, 10歳代6例, 20歳代12例, 30歳代10例, 40歳代3例, 50歳代8例, 60歳代8例, 70歳代2例), 女性42例(10歳代5例, 20歳代15例, 30歳代6例, 40歳代5例, 50歳代5例, 60歳代1例, 70歳代3例, 90歳代2例), 未就学児7例(年齢性別非公開))あり, 累積報告数は1,060例となりました。本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
 - 新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
 - 京都市衛生環境研究所にゆーす 令和2年度 第1号(通巻139号)(特集! 新型コロナウイルス感染症!)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000175/175313/news2020-01.pdf>
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(20歳代女性)(第34週追加報告分)ありました。症状は腹痛, 水様性下痢, 血便, 発熱で, 感染地域は国内です。本年の累積報告数は11例となりました。
発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については, 下記URLを御参照ください。
 - 腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- オウム病の報告が1例(50歳代男性)(第31週追加報告分)あり, 症状は発熱, 頭痛, 感染地域は国内, 感染経路は動物からの感染です。本年初めての報告です。
- アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)の報告が1例(40歳代男性)ありました。症状は粘血便です。感染地域は国内, 感染経路は不明です。本年の累積報告数は5例となりました。
- 梅毒の報告が2例(20歳代及び70歳代男性)あり, 感染経路はともに性的接触です。本年の累積報告数は44例となりました。
梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け, コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見, 早期治療が非常に重要です。

◆ 今週のトピックス: <オウム病>

京都市で2020年第31週, 約1年半ぶりにオウム病が1例発生しました。京都市では, 過去14年間に5例と散発的にオウム病の報告がありました。全国では, 2000年代前半に多い年では年間50例以上の報告がありました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類: 結核 5例(肺結核 3例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 169例(肺結核 80例, その他結核 33例, 潜在性結核感染者 56例)うち喀痰塗抹陽性 36例】
- 指定感染症: 新型コロナウイルス感染症 99例【1月以降の累積報告数 1,060例】
- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 11例】
- 四類: オウム病 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- 五類: アメーバ赤痢 1例【1月以降の累積報告数 5例】
- 五類: 梅毒 2例【1月以降の累積報告数 44例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

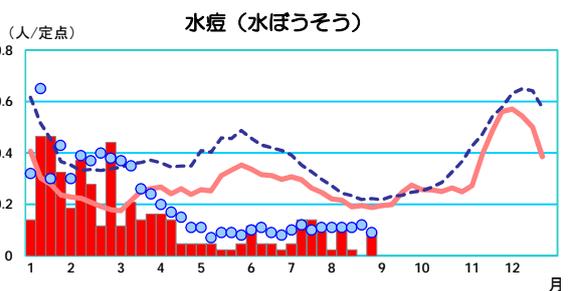
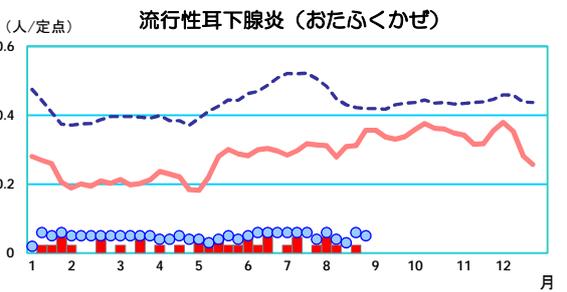
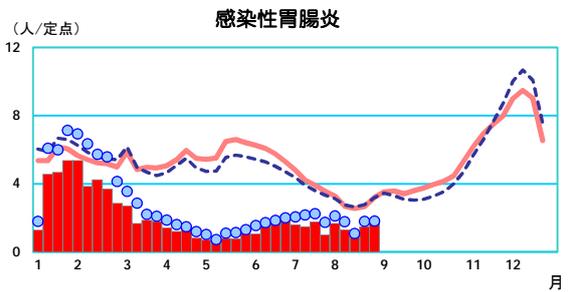
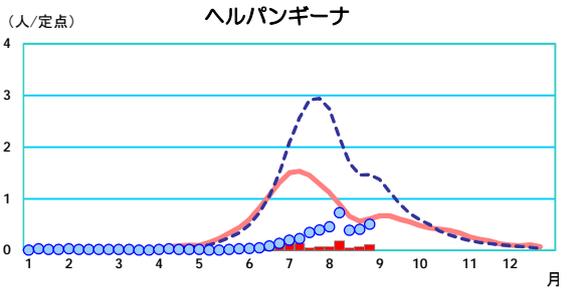
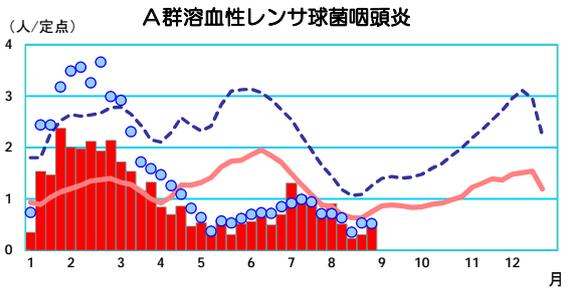
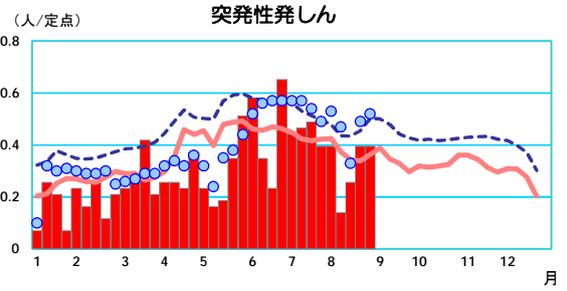
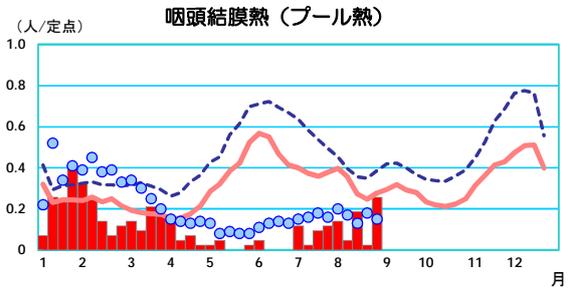
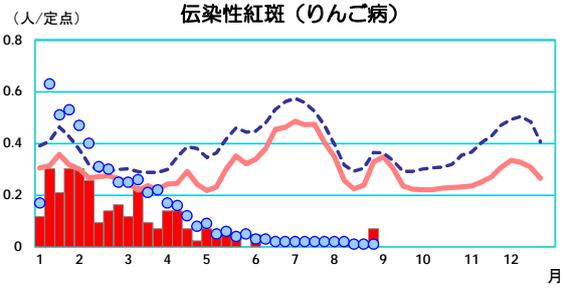
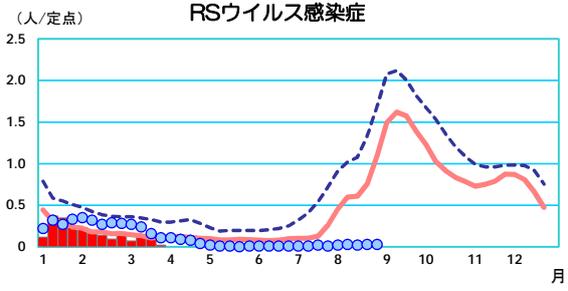
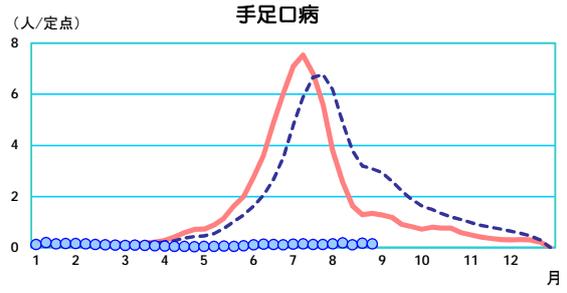
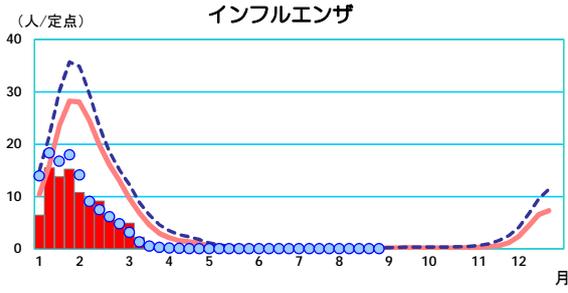
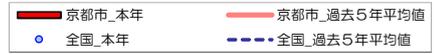
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科	① 感染性胃腸炎	1.65	71
(降順5位まで)	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.56	24
	③ 突発性発しん	0.40	17
	④ 咽頭結膜熱	0.26	11
	⑤ ヘルパンギーナ	0.12	5
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <オウム病>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2020年9月2日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2020年）



第35週(8月24日～8月30日)トピックス: <オウム病>

京都市で2020年第31週、約1年半ぶりにオウム病が1例発生しました。京都市では、過去14年間に5例と散発的にオウム病の報告がありました(表1)。全国では、2000年代前半に多い年では年間50例以上の報告がありました(図1)。2010年以降は5～13例と減少し10例未満の年も多いですが、軽症例の多くがオウム病と確定診断されずに治療されているという推測もあり^{*)}、実際にはより多くの発生がある可能性があります。また、集団発生の事例も散見され(表2)、高齢者や妊婦で複数の死者が出た年もあることから、依然として注意が必要です。

オウム病の原因はオウム病クラミジア(*Chlamydia psittaci*または旧名*Chlamydophila psittaci*)で、偏性細胞内寄生性の微生物です。クラミジアは細菌に分類されますが、感染性を持つ基本小体、増殖に特化した網様体及びその中間体といったいくつかの形態に変化して生活環を維持する(図2)、細胞壁にペプチドグリカン層を持たないなど、他のよく知られている細菌とは一線を画す特徴を持っています。

オウム病は、感染した鳥類の排泄物や鼻汁が乾燥してできた塵埃や、塵埃が付着した羽毛をヒトが吸引することによって感染します。「オウム」病という名前ですが、オウムに限らず広く鳥類からヒトへ感染し、日本の原因動物はインコとハトで6割以上を占めます(図3)。海外の野生のオウム・インコ類は5%程度、国内の野外のドバトの約20%がオウム病クラミジアを保菌しており、国内飼育鳥類では健康個体の約5%、病鳥の約8%、斃死鳥の約30%が保菌しているという報告もあります。なお、時に哺乳類の胎盤や羊水からも感染する他、ヒトからヒトへの感染はないわけではありませんが、極めて稀であり、ほとんどが鳥類に由来すると考えられます。

オウム病の症状は、主として肺炎を起こしてインフルエンザに似た症状を呈する肺炎型と、全身の臓器に広がり敗血症に似た多様な症状を呈する全身型があります。1～2週間の潜伏期間を経て突然に発症し、高熱とせきが現れます。初期治療が適切に行われなければ重症化し、死に至る場合もあります。特に高齢者や妊娠している方は注意が必要で、後者には流産することもあります。

オウム病にワクチンはないので、鳥類との接触を控えることが唯一の予防策となります。上述の通り一定数の野鳥がオウム病クラミジアを保菌しているため、野鳥と触れあうことは避けてください。小鳥を飼っている方は、鳥類への口移しや噛まれることで感染する場合もあることから、愛鳥との過度の触れあいは控えましょう。また、一度に大量の鳥の糞や羽毛を吸引すると発症するリスクが高まるため、ケージの清掃はこまめに行い、清掃後は手洗いとうがいをすることも予防になります。

鳥類がオウム病に感染すると、ヒナや若鳥では元気がなくなる、鼻汁、下痢等の症状が現れ、一部は死亡する場合がありますが、成鳥では無症状のこともあります。症状がある鳥類からはより多くのオウム病クラミジアが排泄されていますが、適切な投薬を行えば排菌しなくなりますので、感染予防、また愛鳥の健康のためにも、ペットの具合が悪い時にはかかりつけの獣医師にご相談ください。

○京都市情報館ホームページ「人と動物の共通感染症について」
(<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000106808.html>)

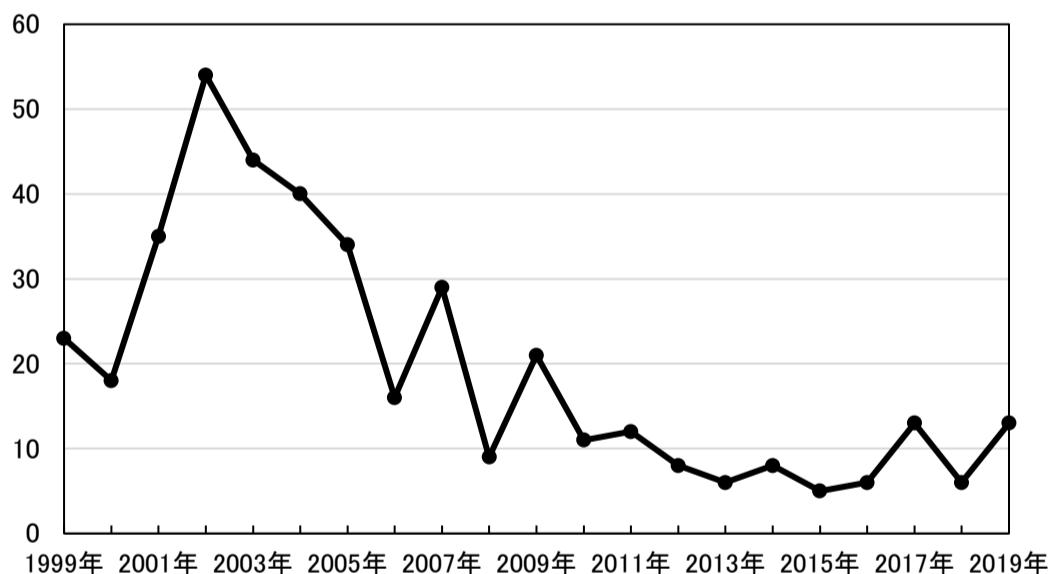


図1. 全国における近年のオウム病症例の報告数¹⁾

表1. 2006年以降の京都市のオウム病症例

診断週	年齢性別	推定される感染経路
2007年第8週	60歳代女性	セキセイインコを飼育
2011年第28週	60歳代女性	インコを飼育
2017年第43週	30歳代女性	オカメインコを飼育
2019年第3週	30歳代男性	野生鶉を飼育
2020年第31週	50歳代男性	フクロウを飼育

表2. オウム病集団発生事例の一例²⁾

発生時期	都道府県	原因動物	概要
2001年6月	神奈川県	シベリアヘラジカ	動物園飼育のヘラジカの分娩介助をした職員5名が発症
2001年11月	島根県	複数種の鳥類	千羽超の鳥を飼育する展示施設の訪問客12名と職員5名が発症(その他、職員16名の感染が判明)
2005年12月	兵庫県	ヒムネオオハシ	千羽近くの鳥を飼育する開園前の展示施設で職員2名が発症(その他、未確定症例9名)
2014年2月	神奈川県	ドバト	社会福祉施設の換気扇フードにドバトが営業し、利用者及び職員11名が発症(未確定症例含む)

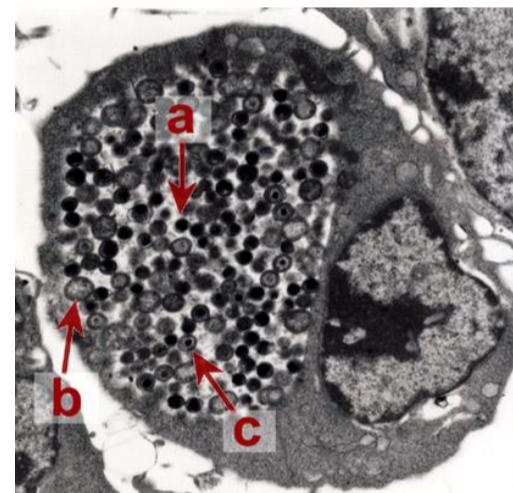


図2. オウム病クラミジアの電顕像³⁾
(a:基本小体, b:網様体, c:中間体)

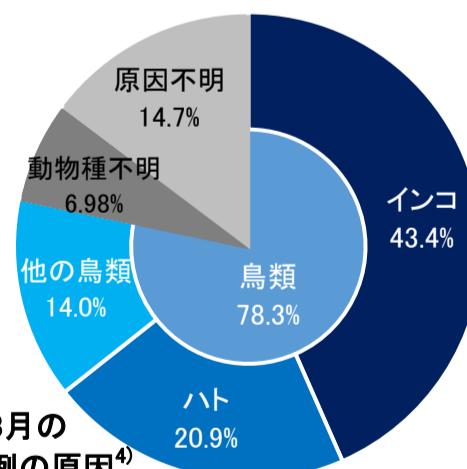


図3. 2006年4月～2017年3月のオウム病症例の原因⁴⁾

本文は以下のウェブサイトを参考に作成(以下、全て2020年9月4日閲覧)

○モダンメディア51巻7号「オウム病の最近の知見」

(https://www.eiken.co.jp/uploads/modern_media/literature/MM200507_01.pdf)

(*)国立感染症研究所「オウム病(psittacosis)とは」

(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/366-psittacosis-intro.html>)

(1)国立感染症研究所「感染症発生動向調査」を元に作成

(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/ydata/9009-report-ja2018-20.html>)

(2)「H-CRISIS」(健康被害危機管理事例データベース)に登録されている事例を引用

(<https://h-crisis.niph.go.jp/>)

(3)国立感染症研究所「オウム病(psittacosis)とは」より引用

(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/366-psittacosis-intro.html>)

(4)国立感染症研究所「日本におけるオウム病症例発生状況(2006年4月1日～2017年3月31日)と妊娠女性におけるオウム病」

(<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000172401.pdf>)

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第35週

疾病,行政区別報告数

2020年8月24日～2020年8月30日

データ入手日:2020年9月2日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	3	8	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	1	8	3	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	1	2	4	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	3	5	4	1	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
伏見	-	-	5	5	29	3	1	1	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	1	10	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	-	11	24	71	4	4	3	17	5	-	-	3	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	-	0.25	-	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	0.25	-	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	-	-	0.33	-	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	0.75	2.00	-	-	-	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	1.33	-	-	-	-	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	0.20	1.60	0.60	-	-	0.40	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	0.33	0.67	1.33	-	-	-	0.33	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	0.60	1.00	0.80	0.20	0.20	-	0.20	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-
伏見	-	-	0.71	0.71	4.14	0.43	0.14	0.14	1.00	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	0.20	2.00	-	0.20	-	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	-	0.26	0.56	1.65	0.09	0.09	0.07	0.40	0.12	-	-	0.30	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第35週

年齢階級, 疾病別報告数

2020年8月24日～2020年8月30日

データ入手日:2020年9月2日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		11	-	1	6	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		24	-	-	3	2	2	1	2	2	2	-	2	3	1	4						
感染性胃腸炎		71	-	5	14	5	4	1	5	3	3	2	4	11	3	11						
水痘		4	-	-	1	1	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		4	-	1	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		3	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		17	1	6	8	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		5	-	1	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.26	-	0.02	0.14	0.02	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-	0.02						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.56	-	-	0.07	0.05	0.05	0.02	0.05	0.05	0.05	-	0.05	0.07	0.02	0.09						
感染性胃腸炎		1.65	-	0.12	0.33	0.12	0.09	0.02	0.12	0.07	0.07	0.05	0.09	0.26	0.07	0.26						
水痘		0.09	-	-	0.02	0.02	0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.09	-	0.02	0.05	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		0.07	-	-	0.05	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.40	0.02	0.14	0.19	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.12	-	0.02	0.02	0.02	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		0.30	-	-	-	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	0.10	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第35週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2020年9月2日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	5	6	2	8	1	11
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	29	39	22	10	13	24
感染性胃腸炎	43	72	56	37	64	71
水痘	4	1	5	1	-	4
手足口病	4	7	3	2	7	4
伝染性紅斑	-	-	1	-	-	3
突発性発しん	17	17	6	11	17	17
ヘルパンギーナ	3	3	8	2	3	5
流行性耳下腺炎	1	2	1	-	1	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	4	2	1	-	3
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	107	151	106	72	106	142

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	0.12	0.14	0.05	0.19	0.02	0.26
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.67	0.91	0.51	0.23	0.30	0.56
感染性胃腸炎	1.00	1.67	1.30	0.86	1.49	1.65
水痘	0.09	0.02	0.12	0.02	-	0.09
手足口病	0.09	0.16	0.07	0.05	0.16	0.09
伝染性紅斑	-	-	0.02	-	-	0.07
突発性発しん	0.40	0.40	0.14	0.26	0.40	0.40
ヘルパンギーナ	0.07	0.07	0.19	0.05	0.07	0.12
流行性耳下腺炎	0.02	0.05	0.02	-	0.02	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.10	0.40	0.20	0.10	-	0.30
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	2.57	3.82	2.62	1.75	2.47	3.53

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。